

大学院博士後期課程の設置にあたって  
—博士後期課程の概要と展望—

大学院看護学研究科長・副学長 牛尾 禮子

姫路大学大学院看護学研究科論究

第3号

2020年3月1日発行



# 大学院博士後期課程の設置にあたって

## －博士後期課程の概要と展望－

大学院看護学研究科長・副学長 牛尾 禮子

### はじめに

姫路大学は、平成19年に看護学部看護学科を開学し、平成20年には教育学部こども未来学科（通学課程・通信教育課程）を開設しています。平成29年4月には、姫路大学大学院と看護学研究科修士課程（博士前期課程）を設置し、続いて大学院博士後期課程を平成31年4月に開設し、現在に至っています。

大学院博士前期課程では、高度な看護実践専門職業人を育成することを目的とし、博士後期課程では、看護学の発展に寄与できる教育・研究者を育成することを目的としています。前期・後期課程の設置は、比較的順調に進んだかのように見えますが、博士前期課程の準備でも多くのエネルギーが必要でした。なんとか前期課程の設置を果たしたものの、その準備に、あまりにも多くのエネルギーを使い果たしたため、とても後期課程の設置は考えられないと思っていました。しかし、これからの看護教育を考えると、博士後期課程は必要だという、思いに駆り立てられました。さらに、理事長の「博士後期課程を作って下さい」という熱い思いに押されたこと、社会情勢や地域の関連施設からの要望もあり、博士後期課程設置準備室を開設しました。

博士後期課程の設置は、博士前期課程の設置以上に、文部科学省の審査も厳しい状況が続き、すべてに苦難の毎日でした。また設置しようとする分野に対する教員を新たに採用する必要がありましたが、兵庫県下には、看護系の大学院を設置する大学も多く、それは容易ではありませんでした。しかし、多くの方々の理解と協力をえて、教員が確保できたことは大変ありがたいことでした。

博士後期課程の設置を進めていくなかで、ひとつのエピソードを紹介します。博士後期課程では、社会情勢や人々のニーズからコンセプトを決定することが重要であり、検討した結果、分野に共通する「QOL＝生活の質、生命の質」を軸にすることとなりました。それを主軸とした目的、目標、シラバスを作成するわけですが、あまりにもQOLに力をいれすぎたのか、文部科学省の相談では「QOLの研究者をつくるのですか」などかなり厳しい意見を受けました。コンセプトは、教育課程の主軸となるものですから、設置準備室では、何度も検討を重ね、最終的にQOLの中心概念でもある「健康と生活」をコンセプトにしました。今では、懐かしい思い出となっています。申請では、その他にもさまざまな意見を受け、連日、討論、討論で、申請から再補正申請までの苦労は大変なものでした。後から数えてみると委員会は、約50回開催しておりました。全員、最後までくじけることなく頑張り抜き、最終認可

時の付帯事項では、文部科学省から全く意見が見つからないという、快挙でした。次に大学院博士後期課程の概要について付記しておきます。

## 博士後期課程の概要について

### 大学院の目的

学問の向上のために、常に、探究心をもち、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、深い学識と卓越した能力を培い、文化の進展に寄与できる高度な専門職業人及び教育・研究者を育成することを目的とする。

博士後期課程の設置にあたっては、社会情勢や地域のニーズ等を踏まえ、一人ひとりが満足できる生活に貢献し得る教育・研究者の育成を目指していることから、次のような教育目的・目標を設定した。

### 博士後期課程の教育目的

人間に関する高い学識をもち、人々の「健康と生活」の支援を科学的に探究し、その支援の考究を自立して行うことができ、看護学の発展に寄与できる教育・研究者を育成することを目的とする。

### 博士後期課程の教育目標

人間に関する高い学識をもち、人々の支援を科学的に探究でき、看護学の発展に寄与できる看護教育・研究者として以下の3つの能力を身につけることを目標とする。

- ①人々の健康と生活の支援を科学的に探究できる。
- ②看護学の発展のための研究を自立して行うことができる。
- ③次世代の看護職を育てる教育・研究ができる。

### 博士後期課程の教育課程編成の考え方

博士後期課程の、ディプロマポリシーは、①人間に関する高い学識をもち、人々の健康と生活の質を向上させる看護のあり方を探究できる能力を身につけている、②人々の健康に関する課題を多角的に捉え、新規性、独創性のある研究を自立して行い、看護学発展のために尽力できる能力を身につけている、③人間に関する深い洞察力と高い倫理観をもち、人々の生活と権利を基盤に据えた看護教育を体系的に構築でき、次世代の看護職を育てることができる能力を身につけている、とし、カリキュラムポリシーでは、社会情勢や地域のニーズとともに、既設の前期課程における学修内容、修得した看護実践能力、専門分野を統合・発展させ、成人・高齢者、障害児・者及び家族の健康と生活の支援に重点を置いた編成とする。

### 博士後期課程の教育課程の概要

教育課程では、共通科目と専門科目を置く。

共通科目は、教育・研究者として、人間に関する高い学識をもち、人々の健康と生活を重視した看護を多角的に探求し、健康に関する研究課題とその研究を明確にするとともに看護教育を体系的に考察できる力を養うことを目的とし、「看護教育特論」、「看護学研究特論Ⅰ」、「看護学研究特論Ⅱ」

の3科目を設置し、すべて必修科目とする。「看護教育特論」では、国内外の諸理論や看護教育の変遷について考究し、看護教育者としての理論的基盤を養うために、諸理論と教育との関連性について探究する。併せて、我が国の社会的・教育的現状を反映させ、変化に対応した人間の成長・発達過程を促進し、看護の哲学と科学を追究した質の高い教育の保証について多角的に考察する。さらに、教育活動のなかで、人間に対する深い洞察力と高い倫理観をもつことの重要性や人々の権利及び看護の質の向上を目指した看護教育を体系的に学修する。

「看護学研究特論Ⅰ」では、看護研究が理論構築や看護に果たしている役割と意義を学修する。次いで看護研究のさまざまな研究方法について、その意義や倫理的課題を検討し、研究の現状と課題を考究する。併せて、関連する研究論文を精読し、討論することで、新規性、独創性、発展性のある研究課題を探究する。

「看護学研究特論Ⅱ」では、研究に関わる多様な方法論を学修し、エビデンスに基づく研究デザインを探究する。統計的手法とその活用による国内外の研究論文の抄読を通して、データ収集、データ解析及びアウトカム評価などの研究方法を学修する。次いで自己の研究課題に関する文献を系統的に収集し、批判的、論理的に吟味するとともに、研究計画を洗練させる方法を考究する。さらに、プレゼンテーションを行い、効果的な研究成果の提示方法を学修し、発信力を身につける。

専門科目は、「成人・高齢者看護学分野」、「障害児・者支援学分野」の2分野を設置した。各専門分野では、成人・高齢者、障害児・者及び家族の健康と生活の支援を探究し、新規性、独創性のある研究を行い、その成果を一貫性のある論文としてまとめることができ、研究を自立して行う力を養う。そのために、「成人・高齢者看護学特論」、「障害児・者支援学特論」、「成人・高齢者看護学特別研究」、「障害児・者支援学特別研究」の4科目を設置する。

「成人・高齢者看護学特論」、「障害児・者支援学特論」は、各専門分野に関する国内外の最新の動向を検討し、課題等を探究しながら、学問体系について考究できる力を修得する科目である。共通科目の「看護学研究特論Ⅰ」、「看護学研究特論Ⅱ」の学修を通して、自己の研究課題の検討を行い、新規性、独創性のある研究に向かって具体的な研究計画を立案する。

「成人・高齢者看護学特別研究」、「障害児・者支援学特別研究」は、自己の研究課題について研究を進め、まとめる力や発表する力を身につけ、最終年次には確かな学識と根拠に基づいた知見の創出と研究の学問的意義を考察し、創造性と発展性のある博士論文として仕上げることで、自立して研究できる力を修得する科目である。

「成人・高齢者看護学特論」では、患者と家族に対する緩和ケアのあり方について、国内外の研究の動向を検討し、我が国の課題を考究します。エンドオブライフにおける倫理的課題として意思決定を中心に検討し、健康と生活の支援を探究する。地域ケアシステムの変化を包括的に把握し、マネジメントするための方法について学修する。また、高齢者のQOLと生活を支える口腔機能に関連する要因を探究し、ニーズに適したケアを考察する。併せて、高齢者と介護保険制度の現状を把握し、介護保険施設及び在宅における要介護高齢者のケアニーズを考究する。

「成人・高齢者看護学特別研究」では、共通科目及び専門科目の特論での学修を基に、成人・高齢

者や家族の健康課題について新規性、独創性のある研究テーマ、研究目的、研究方法等の検討を重ね、研究を計画的に遂行し、結果を分析、考究する。併せて、研究成果を一貫性のある論文としてまとめる。論文を推敲し、博士論文として仕上げることで、自立して研究できる能力を身につけるようにする。

「障害児・者支援学特論」では、障害児・者研究における国内外の最近の動向や知見を広く検討する。重症心身障害児・者及び発達障害児・者と家族のQOL、特に母親の生活活動や生活状況を把握することによって課題を明確にし、健康と生活への支援方法を考察する。また、重度障害児・者の生命や人権について考究する。

「障害児・者支援学特別研究」では、共通科目及び専門科目の特論での学修を基に、障害児・者や家族の健康課題について新規性、独創性のある研究テーマ、研究目的、研究方法等の検討を重ね、研究を計画的に遂行し、結果を分析、考究する。併せて、研究成果を一貫性のある論文としてまとめる。論文を推敲し、博士論文として仕上げることで、自立して研究できる能力を身につける。

#### 学位記について

博士後期課程では、共通科目を6単位、専門科目では、自分の研究課題に応じた選択科目6単位(特論2単位、特別研究4単位)、合計12単位を修得する。博士論文を作成し、審査に合格すると博士(看護学)が授与される。

### 博士後期課程に求められるもの

後期博士課程では、「成人・高齢者看護学分野」、「障害児・者支援学分野」の2分野を設置しました。近年、わが国の死因の第一位は、がんであり、続いて心疾患、肺炎です。特にがんに対しては、継続した質の高いケアが求められます。がん患者やその家族は、診断された時から様々な場面で精神的な苦しみを経験し、また経済的問題に直面することもよくあります。その苦悩を目の当たりにした時、看護として何ができるのか、そのたびに、そういった問いが生じてきます。これらの問題・課題は、以前から看護が取り組んできたことですが、いまだに患者の身体的、精神・心理的、社会的苦悩は緩和されていないといえ、解決されないことの多さに戸惑います。また、高齢社会となり、認知機能が低下した人が増加しており、家族形態の変化、人々の価値観の多様化などのなかで、その人が尊厳ある生活を送れること、人生の最終段階をどうすればその人らしく迎えることができるか、などが課題になっています。さらに、看護力や介護力の不足、低下も大きな問題です。

障害児・者をとりまく社会状況も大きく変化してきています。発達障害児・者は増加傾向にありますが、健常児・者とは、連続しており境界が不明瞭であるため、環境の改善やかかわりのあり方などが重要となってきています。重症心身障害児・者においても社会の偏見・差別が残るなかで、彼らの尊厳をどう守っていくか、在宅介護で疲弊する親をどう支えるか、などの問題・課題があります。

病気がある人、高齢の人、障害のある人たちの「健康と生活の安寧」をどのように支えていくかは、医学だけでは解決が困難なことが多く、「看護学」として、生活全般を重視した支援方法の開発が求められます。

これまでも看護実践者、教育・研究者は、社会のニーズに対応しながら疾病や傷害のある人々の支援に力を注いできていますが、そのためには、実践の方向性を示す科学的根拠や知見による学問体系の構築が求められます。つまり、これまで以上に支援を必要とする人々に対して「看護学」が中心となり、対象者主体の生活や幸福感といった生活の質を向上させることに重きを置いた教育・研究が重要となります。生活者としての満足度に重きを置き、深い洞察力と創造的な思考を備え、広い視野に基づいた支援を科学的に追究できる人材が必要であり、その育成は急務です。

看護のなかで多くのことが語られ、さまざまな実践がなされてきているなか、私たちはこれらのことを問い直し、追究していくことの責務があります。多角的な視点から、現実に即した、しかも学際的な支援研究ができる教育・研究者の育成が必要です。本学に博士前期、後期課程が設置できたことは、看護学の実践や地域貢献において非常に意義あるものといえます。

## おわりに

「生活の質」に関する研究は多くありますが、どう実現していくかはあいまいな気がします。今日の社会は、医療や福祉支出の増大、格差社会、少子高齢社会、しかも多様化した人々の意識や生活などにより複雑化しており、しかも人々の「健康と生活」は、主観的かつ個別性、自由性があり、そこには環境のみならず、哲学や思想が介在しています。それぞれの人の「健康と生活」のありようを考える時、その支援は容易でないことは明らかです。それゆえに、本学において「健康と生活」が考究できる分野を設置し、研究者を育成できることは、大変身の引き締まる重要なことだと思っています。

最後に、博士後期課程設置申請業務に携わった教職員は、本来の仕事に加え、申請内容をすべて把握したうえで厳密にスケジュールを作成し、ひとつでも内容や用紙が抜け落ちると受理されないというプレッシャーを感じながら、しかも時間に追われるなかでの業務でしたので、相当なストレスだったと思います。夜遅くまで議論しているとすぐに門限となり、守衛さんから「そろそろお帰りください」といわれるまで本当によく頑張ったと思います。

設置準備にあたっては、それぞれが一生懸命で、多くの意見を戦わせてきました。自分の意見をしっかりともちながら他者の意見も尊重し作り上げるといふ、難しさもありながら、時には冗談も交わし、笑いもあり、という、すばらしい仲間たちでした。大学院博士後期課程は、設置準備委員たちのゆるぎないチームワークとたゆまない努力により認可されました。

こうして設置された大学院博士後期課程看護学研究科は、平成31年4月からスタートし、現在、第一期生7名が学修しております。今後、看護学部とともに大学院看護学研究科、博士前期課程、後期課程が益々発展し、地域社会に様々なことを発信していきます。